

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300409		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホームサンシャインことひら		
所在地	群馬県桐生市琴平町4-6		
自己評価作成日	平成30年10月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.sanikukai.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は散歩に出掛け、季節の移り変わりを感じ、下肢筋力をつけ転倒予防に心掛けている。 ・利用者様個々の能力ややりたい事、出来る事を見極め掃除、洗濯たみ、食事の準備、後片付けなど一緒にいき、役割や生きがいを得て頂いている。 ・他施設の認知症カフェや合同イベントに参加したり、季節の花を見学に行き、外出の機会を増やし、楽しんで頂いている。 ・畑を活用し地域の方に収穫した野菜を配り、利用者様も収穫や調理を楽しんでいる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成30年4月に開設した事業所であり、運営推進会議のメンバー選定については、町会長に相談し、地域や地域で役割を担っている方に依頼しており、会議の意図を把握していただき、多方面の方がメンバーとなり、家族・利用者も出席するなかで、それぞれが発言し合える活発な運営推進会議を展開している。食事においては、週2回手作りの日を設け、利用者と一緒に買い物に行き、事業所内の畑で収穫した野菜が食卓に並び、行事メニューでは利用者の好きな食事を提供する等、食事が楽しみとなるような工夫が見られる。さらに、居心地のよい空間作りでは、テーブルの配置を考慮し、利用者との人間関係の摩擦を少なくしたり、トイレ後自室に帰れない利用者には床にテープで誘導の線を張る等、本人の尊厳を守りつつ支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で話し合い理念を作り共有している。問題が発生すると、ミーティングで話し合い、理念に沿えるようにしている。	職員全員で作成した理念は、日々のケアの中に活かされている。言葉かけを丁寧にして、口数が少ない利用者に声かけを多くしたり、家族、友人、地域の方の訪問を受け入れたりしており、問題がおきた時には、理念をもとに話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日散歩を行い近所の方々と挨拶を交わしたり、近くのお店に買い物に出掛けている。畑で収穫した野菜を配ったり、行事がある時は、チラシを配り、事業所に足を運んでいただける様にしている。	利用者は、近所の店での買い物や畑で収穫した野菜を近所に配布するなど、地域との交流を図っている。事業所は、行事や事業所内容のチラシを近隣に配ったり、回覧板を利用したりして、事業所の理解を広めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が来所された時は、いつでも見学して頂いて、施設の様子を見て頂き、不明な点がある場合は、説明させて頂いている。必要であればパンフレットをお渡ししている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H30年7月～会議を開始。2ヶ月に1回家族、利用者様、市職員、民生委員、町会長、包括支援センター職員、介護部長、山育会事務センター職員、管理者が、活動報告を行い意見交換を行っている。身体拘束適正化委員会も合わせて開催している。	町会長の協力を得て会議メンバーを多方面から選出し、それぞれが活発に意見交換する会議となっている。ヒヤリハット報告や地域の行事の紹介等があり、地域公民館のバザーに参加する機会も得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の手続きを行ったり、運営推進会議に、市の職員に参加して頂いている。施設の現状を報告し、問題点を相談し、必要な助言、指導などを得て市との連携を取っている。	市担当者は運営推進会議のメンバーであり、ヒヤリハット事例のアドバイスを受けた後、介護保険手続きで窓口に出向いたりして、日頃から風通しのよい関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の行動を制する拘束、言葉の拘束をしないケアを実践している。どうしても身体拘束が必要と思われる方には、ミーティングを行い、代替のケアを話し合い、拘束しないよう努めている。	身体拘束適正化委員会は、2ヶ月に1回実施し、研修は、年2回計画している。日常の関わりでは、抑制感を持たせないよう配慮し、安全を考慮する事例については、ミーティングで代替案を検討し対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は入浴時などに身体観察を行い、不審なアザ、傷があった場合原因を突き止め、虐待を見過ごさないよう努めている。研修時に虐待防止について教育を受け日頃の業務で注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見制度を利用している利用者様がいるので、制度の理解や知識を深める機会がある。必要と思われる家族には相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学をして頂き、説明を行い質問を受け、理解して頂いている。契約時にもう一度十分な説明をし、納得して頂いてから契約をしている。救急搬送時の対応や、急変時の対応については、定期的に家族に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者様や家族に参加して頂き、意見を聞いている。面会時に意見や要望等があった場合は申し送りノートに記入し職員に伝えている。また行事の際、アンケートで家族の意見を聞いている。	家族の面会は週1回程度ある方が多く、話を聞く機会がある。面会に来られない家族には電話を入れ、意見を聞く機会を作っている。受診時の内容や訪問理容の要望等利用者に関わる事の意見はあるが、事業所運営に関する直接の内容は出ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	青葉会という、法人の労働組合があり、年に4回経営労務協議会に職員の代表が参加し、他の職員の意見や提案を伝えたい。	職員には、日頃から声かけをして、意見を聞くようにしている。内容は、希望の休暇取得について、残業時間について等であり、リフレッシュ休暇を年5日取れるような勤務へと実践に繋げている。また、法人の事務センターへ、管理者を通さず直接、運営上の意見を話すことができるシステムがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回チャレンジシートを記入し、目標を持って働いている。意向調査も行っている。法人内でのQC活動や感動大賞などがあり、職員のやりがいや向上心を持って働けるような職場環境、条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講演会等の案内は、事務所に掲示してある。各施設に研修委員を置き、月1回研修を行い、個々の職員が参加出来るようにしている。外部より講師を依頼し管理者を対象にした勉強会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で他施設の研修に行ったり受け入れを行っている。施設外の講演などで他の施設に行ったり、個々に参加出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入所時に本人と面接を行い、困っていることや、不安な事、要望を聞いている。言葉で上手く表現出来ない利用者様に対しては、行動と言動の意味を探り、どのような生活を希望しているか把握するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時、ご家族に面談や見学を行ってもらい、ご家族が困っている事、不安な事、要望を聞いたりして、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で、介護支援専門員と管理者が必ず対応し、支援の見極めや他のサービスについても、説明しご本人やご家族に選択して頂けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしの中で、利用者様1人1人の出来る能力を活用し、掃除、洗濯、食事の準備、片付けなどを、一緒に行い困っている所は援助し、利用者様の得意な事を教えて頂き共に支え合う関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や電話等でご本人の最近の様子を伝え、意見交換や要望など伺い、共に支えられるよう支援している。毎月「ことひら」便りを発行して、日頃の様子や外出の様子などを写真に載せ知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの美容室を利用出来るよう支援している。また馴染みだった方の面会も家族了解のもと受け入れている。	入居前の関わりが途切れ閉鎖的にならないよう、配慮している。利用者から行きたい場所への希望も多くあり、家族に連絡し、家族または職員で外出する機会を設け、行きつけの美容院に行く人も多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出、毎日の生活の中で一緒に楽しむ機会を設け利用者様同士が係わり合える関係作りに努めている。集団の苦手な利用者様に対しては、職員が訪室して話を聞いたり、個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様には入所されている利用者様と職員がお見舞いに行っている。契約終了者家族が遠方であったが地元に来た時には顔を見せてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にご本人やご家族から生活歴やご本人の好きな事、どのように暮らしたいか利用者様の思いをくみ取れるよう、希望を聞いている。また日々の生活の中でその人らしさを大切にしよう努めている。	職員間の情報は、申し送りノートを使用し、更にケアプランに落とし込んで、共有を図っている。利用者の気分次第で、本人の思いを大事に、柔軟に対応したケアを実践している。意思を表現できない人には観察を通し思いを推測して、反応を見ながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に生活歴、生活環境、暮らし方、これまでのサービス利用の経過などをご家族やご本人、担当ケアマネから情報を得ている。アセスメントを行い、記録を取り、職員全体が把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々のその日の心身の状態に合わせたケアを行っている。状態の変化はケア記録、個人記録、スタッフ間の申し送り、申し送りノート等で情報を共有し、現状の把握に努めている。心身状態に合わせ、臨機応変に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様1人1人に担当職員をつけ、訪看や栄養士などとも相談し、ご本人やご家族の希望を聞いて、カンファレンスを行い、現状に即したケアプランの作成をしている。担当職員が毎月モニタリングを行っている。	全利用者には担当職員が付き、家族、本人の意向を聞き、職員間で意見交換してケアマネジャーが介護計画を立てている。月1回全利用者のモニタリング、アセスメントを行い、利用者担当職員とのミーティングをしている。評価は、3ヶ月または6ヶ月で実施している。	日々のケア記録が、介護計画と連動するような意識づけと、書式の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日誌を記録する際、ケアプランを一緒にして保管してあるので、プランに即した支援が出来るか確認する事が出来る。状態変化があった時はカンファレンスを開きプランの見直しを行い、スタッフ間で情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化によって、訪問看護、協力病院への受診、他の施設を利用する事が出来る。ご本人やご家族の希望により他の医院から往診に来て頂いたり、かかりつけ医に受診して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館に出掛け、バザーに参加させて頂いた。消防署協力のもと、地域の方をお誘いし、防火訓練を行っている。社会貢献活動でボランティアの受け入れを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に本人、家族の希望のかかりつけ医を持っている。受診の介助やかかりつけ医に往診に来てもらっている。電話やFAXで利用者様の状態報告を行っている。	入居前に、かかりつけ医か事業所委託かを聞き対応している。かかりつけ医の受診には家族が付き添い、送迎は事業所が行っている。協力医や歯科の往診は月1回実施され、更に訪問看護の看護師が週1回処置手当てに来るため、相談しやすい体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結んでおり、毎週定期的に訪問してもらい、利用者様の状態を報告し、様子を診てもらう。急変時には昼夜を問わず、随時訪問してもらい、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院関係者に状態の報告や、普段の様子など、お互いに情報交換している。法人内に地域連携室があり、ご家族や病院の相談員とこまめに連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や訪問看護、他医療機関との連携を取り、ご家族を含め話し合い、職員に伝え、情報を共有しながら支援に取り組んでいる。	入居時に重度化の意向を聞き、状態変化が見られた際には、改めて家族と面会し意向を話し合っている。看護師との連携もとれているため、家族の希望があれば看取りまで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、事業所にAEDが設置してある。救急救命講習の勉強会に職員が参加し、初期対応の訓練を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設独自のマニュアルがある。自衛防火訓練を行い、地域に回覧をまわし、協力して頂いている。	4月に開設したばかりであり、第1回の防災訓練を昼想定で、職員と消防職員で実施した。近所の方の見学もあり、回覧板等で知らせをした効果も見られる。災害備品は、おむつ類を確保している。	今後、夜間想定訓練を実施するとともに、地域との協力体制づくりにむけての検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての利用者様に対し、人生の先輩という気持ちを常に持ち、失礼のない言葉かけや対応をしている。利用者様は苗字で呼び人格、尊厳を尊重したケアを実施している。	利用者には名字で呼ぶ、失礼のないその人に合った言葉かけを行うことを意識したケアを実践することが、「尊厳、尊重」に繋がると捉え、日々支援している。家族からの意見等があり注意が必要な時は面談し、言葉かけのポイントをその都度指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時にご本人の好みの飲み物を選んで頂いたり、手作り昼食で食べたい物などを聞いている。ご本人の希望で散歩や外出を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の体調や気分、ペースに合わせて過ごして頂いている。体調の悪い時は居室で休んで頂いている。散歩や買い物、外出の声かけを行っているが、強制はしていない。自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みだった服や、季節に合った服を選んで頂けるよう支援している。ご本人やご家族の希望に合わせて訪問理美容を利用したり馴染みの美容室の受け入れを行っている。家族がアロママサージに来ている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回手作り昼食を利用者様と一緒に作っている。利用者様の出来る範囲内で、食事の盛り付け、配膳、片付けを一緒に行っている。食事中は静かな音楽をかけ会話を楽しみながら食事をしている。	利用者の保有能力を活かし畑で収穫した野菜を洗ったり、皮むきや野菜切りを行ったり、近所に食材の買い物に出かけたり等、食事づくりに参加している。自分が収穫した野菜の写真で喜んだり、誕生会には自分の好みの料理が出る等、食事を楽しむ機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態や希望に合わせて食事の形態を変えて、とろみや刻み食などを提供している。水分量の少ない利用者様に対しては、お茶ゼリーにして提供したり、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じ、口腔ケアを行っている。必要に応じ歯科受診介助を行っている。法人内の歯科衛生士により、月1回職員の口腔指導があり、問題のある利用者様は口腔指導時に診てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スタッフは個々の排泄パターンを把握し時間でトイレ誘導を行い、なるべくトイレで排泄出来るよう支援している。日中は利用者様全員がトイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄では、「本人が不快にならない支援」を提供することを留意している。ほとんどの利用者は排泄自立しているが、排泄後自室に帰れない、下着の中のパットを見せたくない等の行動も見られ、誘導のテープを廊下に貼ったり、下着介助の配慮等プライバシーを尊重した支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示のもと定期的に便秘薬を内服している利用者様もいるが、毎日の散歩やレクで体を動かしたり、手作り昼食やおやつで、繊維質の多い食べ物や乳製品を提供し便秘予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせた入浴の支援を行っている。1人1人で入浴し、ゆったりと入浴時間を取り、マンツーマンで対応している。入浴日は決めておらず、毎日入浴して頂いている利用者様もいる。	入浴日は決めず、いつでも入浴できる体制をとっているが、週3回は清潔の保持を保つようにしている。入浴を拒む利用者には、足浴や清拭に変えたり、時間を工夫したりして、対応している。時には、ゆず湯等で季節感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中散歩やレクリエーション、体操などで体を動かし、夜間良眠して頂けるよう支援している。本人のペースに合わせ、午後居室に行き個別に休息している。不安の訴えがある時は、温かい飲み物を提供している。	yu	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が服薬に携わっている。薬局と家族が契約を結んでおり、薬剤師に薬を届けてもらっている。薬の事でわからない事は薬剤師に聞いて参考にしている。状態の変化等で服薬の変更、追加がある時は、申し送りノートを活用し全職員が把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に気分転換を兼ね、近所のスーパーに嗜好品などを買いに行ったり、施設に併用している畑で季節の野菜を作り利用者様と一緒に収穫し、楽しみを感じて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の散歩を心掛け実施している。個別の買い物に出掛けたり、家族と外食に出掛けている。認知症カフェに定期的に参加したり、イベントやドライブに出掛けている。	気分転換を兼ねドライブに行く、食材の買い物で近くのスーパーに行く等の支援をしている。その他、法人運営の「認知症カフェ」に参加し、地域の人との交流を図っている。車椅子の利用者にも、庭での散歩ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了解のもと、お金を所持している利用者様は近くの店まで買い物に行き、本人の希望する物を購入し、個別ケアを行っている。管理出来ないご利用者様は預かり、買い物時使える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々で連絡したい利用者様は、ご家族了解のもと、個人の携帯を使用している。利用者様がご家族に連絡したい時は、家族了解のもとご本人の希望時に施設の電話を使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関フロアに皆で作った作品や、季節の花が飾ってある。フロアの壁に大型TVが設置されていて、映像や音楽を楽しんでいる。食事中は音楽を聴きながら会話を楽しんでいる。	不快な思いをしない住み方の提供として、トイレ誘導テープや季節感のあるカレンダーや花を居室のドアに飾り、部屋が解るようにしている。エアコンの嫌いな方の熱中症予防の空調管理や人間関係による機の配置等、利用者が不快感なく居心地よく過ごせる空間作りを提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室居住により、一人になれる場所がり、フロアで会話したり自由に過ごしている。利用者間のトラブルに配慮し、テーブルの配置を考えたり気の合った利用者様と過ごせる様になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具など本人の好みの物を持ち込み出来、居心地の良い空間で過ごせるよう工夫している。動線上に危なくないよう配慮している。	居室の備品は、ベットとタンスがあり、持ち込み品は下見の時に相談している。テレビを見たり、ハンガーラックに洋服をかけたり、見慣れた物の中で過ごしている。エアコン操作は、利用者によりスタッフが空調管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両側に手すりがついており、自分で安全に移動出来るようになっている。共同スペースのホールを中心に、キッチンから食事作りの様子や匂いが分かり、家庭的な雰囲気のある工夫をしている。		